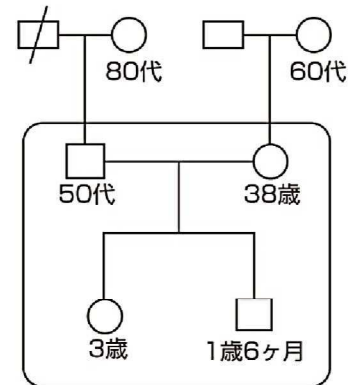


## 多動な子ども 2 人を母親が自宅で育児中

第 1 子に 3 歳児健診でオウム返しがあり、やりとりができなかった。家での様子を確認したくて、家庭訪問について打診したところ、「家がひっちゃかめっちゃかなので、来て欲しくない」といわれ、2～3 ヶ月後に電話で様子を確認することになった。

母親は第 1 子の 3 歳児健診時に「私は家事をするだけで精一杯で、子どもの面倒がみれないんです」、「私のかかわり不足だと思います」、「外に出るのが嫌いなんです」といっていた。その 1～2 ヶ月後に第 2 子の 1 歳 6 ヶ月児健診があった。第 2 子は明らかな自閉症らしく、発語もなく多動であった。1 歳 6 ヶ月児健診の時も母親は「自分のせいです」「自分がうまくかかわれないからです」と自分を責めている感じだった。母親は保健師と目を合わせないし、母親にもちょっとメンタルの問題があるなという印象だった。予防接種とか健診は受けていた。



うちの市では 2 歳児、1 歳半で課題ができない子は 2 歳で必ず確認していますので、2 歳頃にちょっと確認させて欲しいということで、一応健診の場では終わって。2 歳頃に電話したら「いつも体調が悪い」とお母さんが、「なので無理です」ということで、「じゃあ、お母さん、1 ヶ月後ぐらいどうですか」と、「その頃には治っていると思います」ということだったので、電話をするとおそらく断られると思って、突撃で 1 ヶ月後に、近所まで来たのでという形で訪問したんですね。そしたら、ものすごい狭い部屋のなかで、ま、思ったよりはひっちゃかめっちゃかではなかったんですけど、何時頃でしたかね、10 時くらい、朝の 10 時くらいの時間だったんですけど、この下の子（第 2 子、2 歳）がお茶漬けを食べていたんですよ。「お母さんこれ朝ご飯？ お昼ご飯？」って言ったら「いや、朝ご飯ちゃんと食べたんだけどね」と言うんですよ。

突撃訪問と言っても、1 ヶ月前に「いついつくらいに訪問に行くね」と伝えてあって、その日に訪問に行った。その日の朝に電話をすると断られると思ったので、わざと電話を入れずに訪問した。母親は「電話をしてから来ると思った」と言っていたが、受け入れは悪くなかった。

この状況を父親はどう感じているのか連絡を取りたいと思って、父親が休みの日に、父親に電話を入れて今日これから訪問したいと言ったら、父親は「用事があるので、今から出かけます」と会ってくれなかった。結局、母親は動き回る 2 人の子どもを家に閉じ込めて、DVD ばかり見せて、家から出さない。

お母さん自身が、対人がうまく……。アパートの廊下で、ほかのお母さんたちがおしゃべりしてるのを「とっとうらやましいと思う」と。「自分はあるができないんです」と。「自分っておかしいですか」「自分っておかしいですよ」とお母さんが言うから「いや、でも、お母さん、ちゃんと会釈して通るんでしょう？」って言ったら「それはそうします」「だったら別におかしくないんじゃない」と。

「それは人それぞれ、きっかけがあって話し始めるから、別に話はしなくても、例えば、こどもが学校上がって同じ学年だったりすると、自然に声かけたりとかっていうのは自然に出てくるものだから、今別に同じアパートの人と話をしないからおかしいっていうことはないんじゃない？」とあってあたりでちょっと、そういうかかわりをしていって。

下の子が3歳児健診になって、その時点でオウム返しがバリバリで、母親は「自分の関わりですか」「自分の声かけが少ないからこうなのでしょう？」と言うような捉え方だった。健診時に医師から発達について精密検査の指示が出た。母親に説明して、医療機関につないだ。医療機関につなぐ紹介状の中で、お母さんのメンタル面も見してほしい、引き出してほしいと紹介状を持たせ、大人も子どももみれる医療機関を紹介した。子どもは自閉症と診断がつき、母親はうつ病と診断され定期的に通院することになった。やっと医療機関につなげて、母親の体調不良が改善されるのに3年かかった。母親はうつ病と診断されたが、ベースに発達障害があるだろうと思われ、今後の育児が気になった。

母親の実家はちょっと遠いが、月に1回くらい母親の実母（祖母）がバスに乗ってきてくれる。第1子の発達相談に来たときには第2子を母親の実母（祖母）が来て見てくれていたが、母親の携帯に「もう見きれない」と電話がかかってくる、結局母親は途中で帰った。発達相談の医師や心理士と事前に打ち合わせをして、「お母さん来てくれてありがとう」「お母さんよく頑張ってきてきたね」と子どもの発達のことを告げる段階ではないと対応を統一していた。

子どもの診断がつく前から保育園の話はしていた。「日中に育児から解放されて、お母さんも、そうしたら楽になりますよ」と、こどもは第三者がしっかり発達を伸ばすかかわりをし、母親は休息が取れるような支援が必要という視点を持ちながら、介入の機会を待ってかかわった。

このこどもが何かでかんしゃく起こしてギャーギャーしてる時も、お母さんは、普通だったら叱ったり、もう手が出てしまったりとかなりそうなんだけど、「もう……」みたいな感じで、何ていうのかな、抱っこしながら、なんか、こども、ふんぞり返ってギャーギャーしてるんだけど、割となんか、お母さん、これ苦痛じゃないの？と思うんだけど、抱っこして、よしよしじゃないけど、やってたので、そこはちょっと、お母さん、すごいなと思ったんですね。普通だったら、意味もわからず、こうやってこう、ギャーギャーしたら、いいかげんにしなさいって、なんかなりそうなんだけど。

母親はこれまで、毎日のように頭が痛くて頭痛薬とか、鼻炎で耳鼻科に通ったりとかしても症状が良くならなかった、今回はよくなった。「保健師さんのおかげです」と言うことだった。この子どもたちはほとんど外には出ないし、他の子どもも遊んでいないので、母親に対して「家で2人を見るのは大変だろうから、第1子は幼稚園に、第2子は保育園にやりませんか」と調整した。保育園は保育士さんを加配配置して丁寧に対応してもらおうと調整していた。

入園予定の時期に父親が転勤になった。転居先にケースの引き継ぎはしたが、母親のことと子どもたちが成長したときにどうなるのか気になるケースである。

感想：3年かけて母親との信頼関係を作り、母子ともに医療機関につながり、母親の育児負担を軽減できる保育園入所も準備していた矢先の転出である。自分から相談にでかけることが苦手な母親が転居先

の保健師と良好な関係を築けることを願うケースである。

(小笹)